



広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー in 京都 「ええやん！こども食堂フェスティバル」取材レポート



地域みんなで食を通じた子どもの居場所づくりを行う“子ども食堂”の取り組みが京都でも広がる中、子ども食堂を運営する実践者や支援者、社会福祉協議会、行政等が実行委員会をつくり、それぞれの取り組みや課題の交流を通して、なくてはならない子ども食堂を考える機会として開催しました。

トークセッション「いいやん！わたしのまちのこども食堂～こども食堂の意義と可能性～」では、実践団体などから、子ども食堂が持つ様々な機能と特色、期待が発信されました。

こども食堂同士が繋がれば、進化し改善できることがたくさんあると手応えを感じています。



嵐山こども食堂 (右京区) 高畑さん

私たち大学生が、来た子どもたちの未来のモデルとなるような食堂を目指しています！



こども食堂@まほろバ (上京区) 山崎さん ※2018年4月より「白梅町子ども食堂」に名称変更し開催しています

こども食堂に来るこどもの家族や生活にまで関心を持ち、包括的にとらえようとしていくことを大切にしています。



タノシメシ(右京区) 高井さん (社会福祉法人 宏量福祉会野菊荘)

社会問題には、地域だけで対応できない。できること、できないことの課題整理が必要。



実行委員長 志賀さん (大谷大学助教)

子どもには安心と自信と自由を。当たり前にあるはずの子どもの権利を保障することが大切。



副実行委員長 村井さん (山科醍醐こどものひろば理事長)

子どもはぐくみ文化の醸成を、地域のみならずともに進めてまいります。



京都市 上田さん (京都市子ども若者はぐくみ局 子ども若者未来部長)



温かい美味しい豚汁でほっこり

今回の取組では“子ども食堂の活動を目で見て体験できるエリア”として、実践団体や学生ボランティア等が得意技を持ち寄り楽しい企画を実施。各地の子ども食堂で活躍するスタッフ手作りの豚汁もふるまわれ、学びながらほっこりできる、そして、参加者同士もつながれる機会となりました。さまざまな思いで取り組まれている「子ども食堂」。京都市福祉ボランティアセンターでは、今後も子ども食堂など子どもの居場所の取組を応援していきます！



向日市立寺戸中学校吹奏楽部によるオープニング



各団体の特技を持ち寄って、みんなが楽しめる取組となりました。

